

サトイモ全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の利用

農林水産研究所

◆全期マルチ栽培における「生分解性マルチ」の必要性

県内ではサトイモの全期マルチ栽培が定着しており、生産者のほとんどが収穫時に回収が必要なポリマルチを使用しています。しかし、自然に分解される「生分解性マルチ」の利用により、マルチの除去・処分に係る労力や費用を削減できます。



ポリマルチ



マルチ除去作業

省力化・プラスチック廃棄物の削減効果



生分解性マルチ



耕うんによるすき込み

◆生分解性マルチの利用による収量への影響および省力効果

表1 1株あたり収量(11月上中旬)

試験区		親芋重		子芋		孫芋		子・孫芋重 (g)
		(g)	数 (個)	重量 (g)	数 (個)	重量 (g)		
Aほ	生分解性	635	7.0	602	14.2	1,371	1,973	
	ポリマルチ	596	7.3	679	14.7	1,127	1,806	
Bほ	生分解性	504	7.0	685	17.0	951	1,616	
	ポリマルチ	435	7.3	570	23.7	1,271	1,841	

現地2ほ場(A、B)で調査。生分解性：生分解性マルチ展張畝区。
ポリマルチ：ポリマルチ展張畝区(対照)。

表2 ポリマルチ除去の必要時間(11月下旬)

除去方法	除去時間 (時間/10a)
全手作業	約12
トラクタ	約9

トラクタ：マルチを押さえている畝周りの土を取り除く作業をトラクタ使用で実施。

※土入れを実施している畝で測定。

生分解性マルチの利用によって、子・孫芋重を大きく減少させることはなく、ポリマルチ除去に要する作業時間(手作業：約12時間、一部機械作業：約9時間)を短縮することができる。